

EU Indicators

発表日: 2019年11月25日(月)

欧州経済指標コメント: 11月ドイツIfo企業景況感

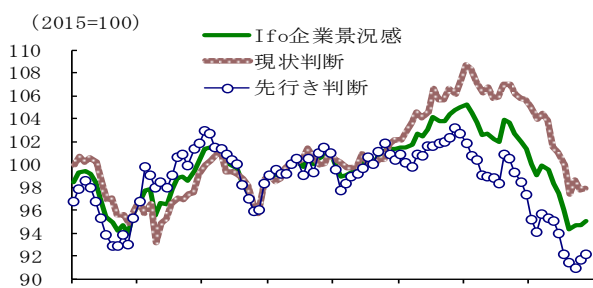
～ごく初期的だが、底打ちの兆し～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

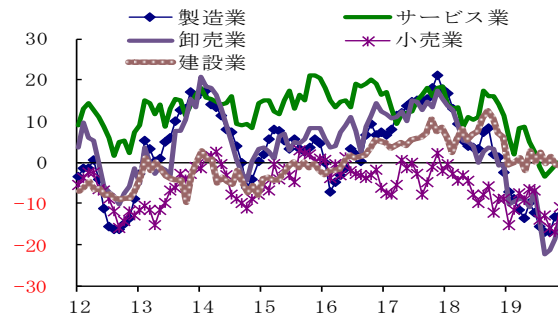
- 11月のドイツ I f o 企業景況感 (2015年=100の指数) は前月差+0.3ポイントと3ヶ月連続で落ち込みを回避した。前月の横ばいを挟み、8月を底に緩やかな改善基調が続いている。内訳は、前月に落ち込んだ現状判断が同+0.1ポイントと横ばい圏、今次サイクルでは8月に次いで低い水準にとどまった。先行き判断は同+0.5ポイントと2ヶ月連続で改善、7月の水準に復帰した。
- 業種別の業況判断 (ゼロが好不況の分岐点) は、製造業の悪化モメンタムが加速、建設業の改善モメンタムが鈍化した一方、小売業とサービス業の改善モメンタムが加速、卸売業の悪化モメンタムが緩和した。現状判断は、製造業と建設業の改善モメンタムが鈍化し、残りの業種は前月対比で改善した。先行き判断は、建設業の悪化モメンタムが加速し、残りの業種は前月対比で改善。
- 今月の計数は期待先行ながら、先週発表されたPMI同様に、緩やかな景気底打ちの可能性が示唆される。やや意外な点は、先行き判断の改善を主導したのが、小売業、卸売業、サービス業など内需関連業種が中心だったこと。製造業の先行き判断の改善幅はごく僅かで、現状判断ではむしろ悪化している。世界的な景気回復期待が、底堅さを保つ内需関連業種の業況改善につながったことが考えられる。足元では、企業の採用意欲が冷え込み、失業保険の受給件数が増加に転じるなど、雇用環境に変調の兆しもみられる。だが、今回の計数をみる限り、人員調整の開始で内需に本格的な下押し圧力が及ぶ景気後退シナリオは顕在化していない。

■ドイツ: I f o 企業景況感



出所: Ifo

■ドイツ: 業種別の先行きの業況判断



出所: Ifo

■ドイツ I f o 企業景況感

	2018				2019											
	4Q	1Q	2Q	3Q	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
企業景況感(総合)	102.0	99.6	98.4	95.0	100.0	99.0	99.9	99.5	98.3	97.5	96.0	94.3	94.7	94.7	95.0	
現状指数	105.9	104.5	102.1	98.7	105.1	104.0	104.4	103.8	101.5	101.1	100.0	97.4	98.6	97.8	97.9	
先行き指数	98.3	95.0	94.8	91.5	95.2	94.1	95.6	95.3	95.1	94.0	92.1	91.4	90.9	91.6	92.1	
業況判断	23.0	17.8	15.2	7.7	18.7	16.4	18.4	17.5	14.8	13.2	9.8	6.2	7.0	6.9	7.6	
製造業	17.2	9.6	3.3	-5.5	11.6	9.6	7.5	4.1	4.4	1.3	-4.3	-5.9	-6.4	-5.3	-5.9	
サービス業	30.1	25.0	23.1	16.2	26.0	22.3	26.8	27.5	21.4	20.5	18.6	13.2	16.8	16.7	17.3	
卸売業	14.7	8.6	7.1	-4.6	9.2	7.0	9.5	9.6	4.5	7.3	-0.2	-6.6	-7.0	-6.1	-2.3	
小売業	1.6	2.4	6.5	3.7	-1.0	1.1	7.2	3.5	6.9	9.0	5.0	4.0	2.2	1.5	5.5	
建設業	29.8	20.1	23.1	22.3	20.1	18.5	21.8	21.9	24.9	22.6	23.2	21.5	22.1	21.0	20.4	

出所: Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

